

主な出来事 (2005年4～6月)

	三重・愛知	全国・海外
4月	●名古屋港ふ頭の倉庫を改装し、ベネチアの街角を再現した商業施設「名古屋港イタリア村」が開業。集客目標は年間200万人。〈4/2〉 ●三重県が、2002年に初めて「三重ブランド」に認定した5品目（真珠、松阪牛、伊勢エビ、的矢力キ、アワビ）33事業者を再認定。〈4/8〉 ●三重大学の研究グループが、コイヘルペスウイルスの経口ワクチンを開発したと発表。同ウイルスの経口ワクチン開発は世界初。〈4/22〉 ●名古屋税関が3月の輸出額を発表。中部国際空港の輸出額が、初めて福岡空港を抜き、成田、関西に次ぐ全国3位に。〈4/26〉	●金融機関が破綻した際、預金の払戻保証が元本1000万円とその利息に限定されるペイオフ制度が全面解禁。〈4/1〉 ●ローマ法王ヨハネ・パウロ2世死去。8日の葬儀には、要人約200人、一般信者200万人以上が参列。新法王にはベネディクト16世が選出。〈4/2〉 ●中国の各都市で反日デモが相次いで発生。デモ隊の一部が暴徒化し、日本総領事館や日本料理店、小売店へ投石するなどの破壊行為に発展。 ●JR福知山線尼崎-塚口間で快速電車が脱線し転覆、沿線のマンションに激突して大破。乗客・乗員107人が死亡。〈4/25〉
5月	●伊勢神宮で山口祭が行われ、20年に一度社殿を造り替える式年遷宮が開始。2013年の遷御までに30余りの祭事や行事が行われる予定。〈5/2〉 ●三重県が、地域再生法に基づく地域再生計画（第1回）及び構造改革特別区域（第8回）の認定申請に、6件の地域再生計画を申請。〈5/18〉 ●鈴鹿商工会議所の呼び掛けで市内自動車販売業者等が設立した協同組合が、使用済み自動車を解体し、部品の再資源化を図る「三重オートリサイクルセンター」を起工。総事業費8億円。〈5/24〉 ●愛知県が、県営名古屋空港開港3ヵ月間の利用状況を発表。旅客数が6万6460人、搭乗率57.7%と前年同期に比べて伸長。〈5/24〉	●文部科学省が、2004年度に高校を卒業した就職希望者の就職率を発表。3月末現在で91.2%と、7年振りに90%台を回復。〈5/13〉 ●国税庁が2004年分の高額納税者を公示。全国上位百人の番付では、サラリーマン（給与所得者）が初のトップ。〈5/16〉 ●フランスが、欧州連合（EU）憲法の批准を巡る国民投票を実施。投票率は約70%で、反対が54.87%となり否決。〈5/29〉 ●高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の国の設置許可につき、周辺住民が無効確認を求めた訴訟の上告審判決で、国側の逆転勝訴が確定。〈5/30〉
6月	●四日市港管理組合が、四日市港と北米、欧州などを結ぶコンテナ定期航路を開設した運航会社に補助金を交付する「北米等基幹航路コンテナ船寄港誘致事業費補助金制度」を新設。〈6/1〉 ●コマーンス ●経済産業省が「産学連携製造中核人材育成事業」に、三重県、三重大学、四日市市の協働提案を採択。〈6/7〉 ●三重県が、民間セクターと連携し、県内での小売・サービス業創業を支援する「みえあきんど創業チャレンジ事業」の開始を発表。〈6/9〉 ●2005年日本国際博覧会にあわせて開催された、金のシャチホコの展示などを行う「新世紀・名古屋城博」が閉幕。来場数は目標の100万人を上回る120万2213人。〈6/19〉	●政府が、ネクタイや上着なしで夏の職場を過ごすことで冷房の使用を抑える軽装運動「クールビズ」を開始。〈6/1〉 ●厚生労働省が2004年の人口動態統計を発表。合計特殊出生率は1.29と4年連続で過去最低を更新。〈6/1〉 ●財務省が2004年の地域別国際収支を発表。全体の経常収支は18兆6184億円で、黒字幅は18%の拡大と過去最大となったが、原油や鉄鉱石などの資源国に対する赤字が拡大。〈6/9〉 ●投資信託協会が株式投信の5月末純資産残高を発表。14年振りに30兆円を超える30兆1847億円。うち銀行経由で販売された株式投信は14兆8410億円と、全体の49.2%。〈6/13〉



コマーンス 経産省が「産学連携製造中核人材育成事業」に三重県等の提案を採択

製造現場における中核人材の育成に必要なカリキュラム・教材開発を支援する、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」に、三重県、三重大学、四日市市が協働提案した「多様な産業集積を活かしたイノベーション誘発型技術人材育成プロジェクト」が採択されました。同プロジェクトは、電気・機械産業の若手開発技術者を対象に、デジタル家電企業などの一線級技術者や三重大学の教授を講師とした講座のほか、企業の製造現場での実践教育などを実施し、これを体系化して教育プログラムを開発、研修システムの確立を目指す事業で、統合力を持った製品開発エンジニアの育成を図る方針です。